

第十五回 新城新能

とき 平成十六年八月二十一日(土)
午後五時三十分始
ところ 新城文化会館大ホール
入場無料

能組

芦刈 定盛展也
国栖 村田昂平
七騎落 加藤晃
西王母 今泉尚美

高砂 中村みなみ
玉葛 伊藤茜
嵐山 神藤奈々
鞍馬天狗 小田綾子

5時30分

仕舞

連吟 国栖

定盛展也
村田昂平
今泉尚美
加藤晃

6時頃

火入式

新城市議会議長
新城市教育長

岡嶋威典
小林芳春

連吟 富士太鼓

金田夏代子
永田聡子

鈴木富代
辻田育子
荒川享子
小林寿枝

加藤佳子
竹下京子
星野弘子
今岡ア子

ごあいさつ

新城市長

山本芳央

6時25分

狂言

棒

縛

大郎冠者 天野雅夫
次郎冠者 山本勝
後見 加藤賢一
主人 大原正巳

仕舞

葛西王城
船弁母
飛鳥慶川
三輪

鈴木富代
荒川享子
加藤佳子
小林寿枝
竹下京子

狂言 鶏

聳

舞 水谷至男
男 酒井宏
後見 加藤賢一
教元手 小澤貞博
大郎冠者 佐野泰三

地謡 山本勝
加藤賢一

7時45分頃

能

羽

衣

霞留

シテ 今泉英三

ワキ 牧野修

大鼓 清水利高
小鼓 森田收
太鼓 中嶋康夫
笛 酒井淑規

後見 栗谷明生
鈴木崇史
加藤貢
太田康弘

地謡 杉浦史佳
太田研司
栗谷浩之
竹内三郎

附祝言

(終了予定九時頃)

主催 新城市文化協会
後援 新城市

新城市教育委員会
新城市観光協会

あ ら す じ

狂言 棒 縛 (ぼうしばり)

召使いが酒を盗み飲むと知った主人は、先ず次郎冠者と協力して太郎冠者に棒を使わせてすきを見て、棒に両手首を縛り、次郎冠者も後手に縛って外出する。それでも兩人は苦心して酒蔵をあけ酒を飲み楽しく謡い舞う。帰って来た主人は……

狂言 鶏 聲 (にわとりむこ)

聲入りの作法を教わるため、聲は日頃懇意にしている人の所へでかける。その人は聲をからかってやりたくなり、聲入りの作法は鶏の鳴くまねや蹴合うまねをするのが当世風だと、てたらめを教える。舅の家しゅうとについた聲は、門前でさっそく「クウクウ……」と鳴くまねをはじめめる。だれかのいたずらと察した舅は……。

能 羽 衣 (はころも)

三保の松原ののどかな春の朝、漁師の白竜が浜辺に出て見ると、近くの松の枝に見馴れぬ衣が掛かっている。珍しく思い家宝にしようと思ち帰ろうとします。

その時どこからともなく美しい乙女が現われて、それは天人の羽衣といって人間に与えるものではないから返して欲しいと頼みます。白竜はそれを聞いて返すどころか国の宝にするのだと断わります。

天人は羽衣がなければ天に帰ることが出来ないので嘆き悲しみます。さすがの白竜も憐れみ羽衣を返す代わりに天人の舞樂を奏して欲しいと条件を出しますが、ただ返してしまえば舞を舞わずに空にかけ昇るのではないかと、不信の念を洩らすと「いや疑いは人間にあり、天に偽りなきものを」と天人にいわれ今更のよう

に心の醜さを恥じます。

天人は羽衣を身につけて、天上の月宮殿の有様をうたい三保の松原の景色をたえ、君が代の万代を寿いだりしながらこの世ならぬ舞を舞いつづけ、やがて羽衣の裳裾をなびかせながら霞にまぎれて天に昇ってしまいます。

あとは、おだやかな波が岸に打ち寄せているばかりでした。

薪能（たきぎのう）

この名称は夜になって薪をたいて、それを照明がわりに演能するところから来た名称ではありません。もとは「薪の神事」などと称して新年に御薪を寺社に献進する儀式で、一種の春迎への信仰行事でありました。それに伴って行われる猿樂が「薪の猿樂」でありました。奈良の「薪能」は奈良時代に起こった行事で、興福寺の修二会しゅうにえに鎮守の社から東西金堂へ行法のために薪を積む儀式であり、その時翁式の聖者が薪を負うてまうことが芸能化しました。初めは寺に所属する呪師しが司っていましたが、後、猿樂者が代行するようになりました。能樂が大成後は金春座が責任者となり、他の座も参勤していましたが、明治以降は中絶、戦後昭和二十一年復活、昭和二十五年京都薪能が平安神宮で催されて以来、各地で大衆野外能として流行するようになりました。

新城に於ては新城文化会館が完成したのを契機に、平成二年第一回新城薪能が新城市文化協会主催で催され大好評を得ました。富永神社の祭礼能とは別に、誰でも参加出来ることとなり、正に「能の里」を目指して参りたいと存じます。現在全国で二〇〇カ所程薪能が催されていますが、職分の先生方の演能がおおく、新城薪能は素人による演能であることが特徴であって、今後永い伝統を持つ祭礼能と共に、薪能を新しい伝統として守り発展させて参りたいと存じております。今後とも皆様方のご支援をお願い致します。

謡・仕舞・囃子（笛、小鼓、大鼓、太鼓）・狂言のお稽古をなさりたい方はお気軽に文化協会事務局へお申し込み下さい。それぞれの向きにお世話を致します。